

平成15年度 内閣総理大臣賞

小川区

(岐阜県郡上市明宝)



県道沿道の花壇



遊歩道の手作り整備

特色

1. むらづくりの背景・動機

明宝村は岐阜県のほぼ中央に位置し、「小川区」は村の中心部とは小川峠（標高912m）で隔てられ、車で30～40分の距離にある。現在、小川区は総人口250人あまり、戸数は79戸、うち農家が26戸（全体の33%）である。地区面積4,565haのうち、耕地は18haと総面積の0.4%に止まり、大部分が山林となっている。農地のうち、田が3分の2、畑が4分の1、残りが樹園地と牧草地となっている。

本区は昭和47年に行った「小川小学校での花壇づくり」活動が全国表彰されるなど

評価され、「学校から地区全体に活動の輪を広げよう」という意識が住民の間で盛り上がった。

2. むらづくりの内容

活動に当たっては、自治活動組織である「小川区」を母体としているほか、若手グループが小川地区の将来を語り、活動する組織である「21会及び区若会」の会員や公民館、そして小川区民全員が参加し、地域の活性化を目指すため設立した「小川ふるさとづくり委員会」がある。

さらに、「演劇クラブや民踊クラブ」、農産加工グループ組織である「こぶしの里」、そして平成15年春には、都市農村交流と体験を行うための施設として整備された「小川きの里」の運営を主として行う「小川ふるさと活性化委員会」など多数の活動団体が生まれ、多くの団体が総出で連携しながらむらづくり活動を進め、「自ら考え、自ら行動し、地域づくりを進める」という自立した精神と団結心あふれる地域として活動している。

農業生産面

耕地は18haと総面積の0.4%に止まり、大部分が山林となっている。農地のうち、田が3分の2、畑が4分の1、残りが樹園地と牧草地となっている。さらに、田はほぼ整備が終わっている。主たる産業は農業であり、水稻のほか、気象条件を活かした「夏秋トマト」、畜産（肉用牛、養豚等）が盛んである。特に「夏秋トマト」は生食用としてJAを通じて販売し、完熟トマトは「明宝レディ・ス」など村内の第三セクターに加工用として出荷している。

近年明宝村はいわゆる「地域おこし」が活発な地域として、全国的にも評価の高い地域でもある。新規就農者2組4人が小川区などの支援により「ストリームマム」という名称の組織を作り、夏秋トマトのハウス栽培を行っている。また、農産加工を行っている「小川農業婦人クラブこぶしの里」に女性3人など、農業生産や農産加工など地域資源を利用した新たな就業機会が生まれている。

生活・環境面

学校花壇づくりから始まったむらづくりは小川地区の玄関である「小川峠の花壇」「県道沿道の花壇」「集落の入り口の花壇」「各世帯庭先の花壇」「公共施設前庭の花壇」など、地区住民や観光に来る都市住民にとっても印象の深い風景となっている。

小川地区のむらづくりのルールは、手作りの良さを大事にしていきたいという意識である。そうした取り組みには、「学校花壇などの花壇づくり」をはじめ、「子ども達のためのスケートリンクづくり」「白山神社の参道の階段が急であるため、高齢者が上りにくくなったため、手作りで整備した遊歩道」などで、資材を村から提供してもらい、労力は地元で協力するという手作りのぬくもりが感じられるむらづくりである。

近年は「東海北陸自動車道」が開通した結果、岐阜市はもとより、名古屋市など大都市圏とも時間距離が大幅に短縮し、都市農村交流活動が活発となると共に交流人口も増加するなど、村民の暮らしにも大きな影響を与えている。